

令和3年度 防衛大学校卒業式
岸 防衛大臣訓示

本日ここに、岸田内閣総理大臣の御臨席の元、防衛大学校の卒業式が挙行されるにあたり、防衛大臣として一言申し上げます。

卒業生諸君、卒業おめでとう。

今、壇上から場内を一望するとき、諸君が小原台で営々と積み重ねてきた努力が凛々しく、頼もしい立ち姿へと昇華していることを肌身に感じます。

さて、諸君も知っての通り、ロシアが、公然とウクライナを侵略し、罪のない多数の人々の命を奪っています。国際平和の維持に責任を持つはずの国連安全保障理事会の常任理事国が、国際法を無視し、現在の国際秩序をだれも望まない形で揺るがしています。

中国は、透明性を欠いたまま軍事力を急速に強化し、我が国周辺海空域を含むアジア全体での活動を活発化させています。

そして北朝鮮については、つい先日も、I C B M級の弾道ミサイルを発射したことにみられるように、かつてない頻度で、新たな態様で、ミサイル発射を繰り返し、その技術のさらなる向上を図っています。

このように我が国の周辺国の軍事活動を見れば、我が国周辺が、そして、世界が激動の時代に入ろうとしていることは、誰の目にも明らかでしょう。その中で幹部自衛官となり、国家の安危に関わる任務に就くことは、とても厳しい選択であります。

しかし、今や諸君は、防衛大学校で培った素晴らしい素質が備わっています。任官後も、この素質に確固たる自信を持ち、崇高な任務に邁進していただきたいと思います。

さて、今述べたような力による現状変更の試みにどう対峙していくか。これは、我が国が正面から問うべき問です。我が国自らの防衛努力こそが、この問に対する欠くべからざる答えであると言えます。

現在、国家安保戦略や防衛大綱等の見直しが政府一丸となって進められています。防衛省でも、私を議長とする「防衛力強化加速会議」を立ち上げ、諸君の先輩方を交えた濃密な議論を進めています。

諸君が本格的に幹部として勤務する時、これらの戦略を具現化するための取組を実践することになるでしょう。その際、諸君は、先ほど申し上げたような我が国周辺地域の動向だけでなく、技術の進歩等が生み出す軍事的課題の変化にも向き合わざるを得ません。

すなわち、現在の防衛大綱等で強調されている宇宙・サイバー・電磁波といった領域に加え、A I の活用、更には人間の認知面に係る取組といった、多様な領域における各国の動向を正確に理解し、適応のための対策を迅速に立案し、着実に実行していく必要があります。

このように、いわば「地域」と「領域」の双方における広範な課題に常時向き合い、必要とあらば素早く自らの姿を変えていくためには「タフな知力」とも言うべきものが求められています。防衛大学校の教育・訓練を通じて諸君が会得した素質が、今後、そのような形で開花することを期待します。

また、複雑化する世界では、同盟国・同志国との関係強化が、一層重要性を増しています。本日、ともに卒業の日を迎えた留学生諸君との友情は、その協力関係を根底から支える礎石の一つです。防衛大学校で蒔かれた絆の種が大きく育ち、留学生諸君の母国と我が国との固い絆として結実することを願ってやみません。

最後に、大切なお子様を小原台に送り出してくださったご家族の皆様と、卒業生諸君を立派な幹部に育て上げた久保校長をはじめとする教職員の皆様に、衷心からの感謝を申し上げ、私の訓示といたします。

令和4年3月27日
防衛大臣 岸 信夫